

# 滋賀の縁創造実践センター 平成29年度事業計画

## 滋賀の縁創造実践センター設立の趣意

～「おめでとう」から「ありがとう」まで、だれもが生きがいを豊かに感じられる地域づくり～

糸賀一雄生誕100年の年、平成26年9月に設立。5年間のプロジェクト

- 2025年問題といわれる少子高齢化への不安と共に、重なり合う生活課題を抱えながら支援につながらない人々、ニーズに対応したサービスがないなど制度のはざまにあるため支援が得られない人々等、社会的孤立や生活困窮の問題が広がっています。
- 私たち滋賀の民間福祉関係者は、この問題を見過さず、滋賀に暮らす一人ひとりだれもが、「おめでとう」と誕生を祝福され、「ありがとう」と看取られるまで、ふだんのくらしのしあわせ（ふくし）が保障される社会を創りたいと考えます。
- このことを自らの実践により実現しようと、民間福祉関係者が分野や立場を越えてつながり、地域住民と共に、社会とつながっていない人々の縁を紡ぎなおし、生き生きと地域のなかで暮らせるよう支援するしくみと実践を県下にくまなくつくっていくための推進母体として、「滋賀の縁創造実践センター」を設立しました。

## 縁センターがめざすもの

- ①トータルサポートの福祉システム化
- ②制度の充実と制度外サービスへの取り組み推進
- ③縁・支えあいの県民運動

## 5年間の目標

- ①縁・共生の場づくり(300か所)
- ②課題解決のためのネットワークづくり(15か所)
- ③制度のはざまとなっている課題へのモデル事業(15事業)
- ④国や県、市町への施策提案(20の提案)
- ⑤新たに福祉のボランティア体験をする人(1万人)

## 事業推進の基本姿勢

- ①最先端の“福祉”支援情報と考え方を提示する
- ②最先端の“福祉”アクション(実践)モデルを提案する
- ③生活者目線で暮らしの課題をウオッチングし続ける
- ④最先端のアクション(実践)モデルと草の根のアクション(実践)モデルを融合させる
- ⑤“おめでとう”から“ありがとう”まで、生活を支える多職種の連携、顔の見える関係、対話を大切に

## 1 縁・共生の場づくり

5年間の目標⇒ 縁・共生の場づくり 300か所(概ね小学校区に一つ)

### 【リーディングプロジェクト】

#### (1) 全員参加型公私協働で取り組む「遊べる学べる淡海子ども食堂」推進事業

- モデル事業の募集と立上げ・運営支援 80か所(新規18、継続62)
- 淡海子ども食堂開設準備講座 7回(各圏域1回)
- 実践者交流会、研修会
- 支援者交流会、研修会

#### 〈県社協・縁センターと県による公私協働事業〉

- 子ども食堂を下支えする応援団としてのフードバンク的な仕組みづくり

#### 〈県社協・縁センターと県による公私協働事業〉

#### (2) 「滋賀の縁」認証事業

本県には、地域の福祉課題、生きづらさを抱える人の存在に気づいた人びとが、「自覚者が責任者」として支え合いの形を模索し、共に生きる実践として展開してこられた活動が多くあり、それが今、滋賀の縁をめざす実践の方向性となっている。

「滋賀の縁」認証事業は、これら県内各地にある共生社会をめざした創造性と実効性のある活動を「縁・共生の場づくり」の先駆的事例としてその価値を認証し、普及活動を行うことにより、縁センターがめざす「おめでとう」から「ありがとう」までだれもが生きがいを豊かに感じられる地域をつくる活動の豊かなひろがりをめざす事業である。

- 平成29年度は、住民が創り、運営する小さな共生の居場所〈コミュニティカフェ〉に光をあて、その価値を広く共有していく。

## 2 課題解決のためのネットワークづくり

5年間の目標⇒ 課題解決のためのネットワークづくり 15か所(概ね福祉事務所単位)

#### (1) 滋賀の縁塾の開催

- ・多職種連携のためのチームづくりを学ぶ場として、県内4か所で開催
- ・多職種連携のマネジメント講座(中央研修) 1回

#### (2) “事例検討”多職種サロンの開催〈県社会福祉士会との協働〉

「一つの施策やサービスでは支援できない」という現場の気づきを、多職種・多分野連携によるトータルサポートにつなげていくための実践的な研修として、事例検討会の実際を学ぶミニ講座を、会員施設を拠点に開催 7回(各圏域1回)

### 3 制度だけで対応できない生活課題の解決のためのモデル事業の企画と実施

#### 5年間の目標⇒ 15事業の実施

##### (1) 企画会議

- 企画小委員会
- リーダー会議

##### (2) 社会福祉施設等を活用したしんどさを抱える子どもの居場所づくり事業(フリースペース)

##### (3) 手をつなぐ育成会との協働による、高齢者施設を活用した中高年障害者の休日の居場所づくり事業

##### (4) 児童養護施設等で暮らす子どもたちの社会への架け橋づくり事業

※平成28年度から県事業として予算化され、県社協が受託。県社協・縁センターと県による公私協働事業として、施設や里親家庭在籍中の支援から退所後の支援まで一体的な取り組みに発展させていく。

##### ○ハローわくわく仕事体験事業

- ・協力事業所の開拓
- ・協力事業所での就労体験
- ・キャリアアップセミナー、プロフェッショナルセミナー、企業懇談会

##### ○啓発活動

- ・ニュースレターの発行

##### ○人材育成事業

- ・施設職員、里親のためのセミナー

##### ○退所後の居場所づくりと、相談支援体制の整備

##### (5) ひきこもりの人と家族の支援事業

※平成29年度から県事業「ひきこもり者と家族に学ぶ公私協働による地域づくり事業」として予算化された。県社協・縁センター、会員法人と県による公私協働事業として、甲賀モデル事業の充実と、他圏域での新たな展開を図る。

##### ○甲賀・湖南ひきこもり支援「奏」の運営支援

##### ○県内各圏域での、制度にとられない本人、家族支援の取り組み推進

- ・本人、家族の居場所づくり
- ・アウトリーチを重視した支援
- ・地域での支援体制づくり

##### (6) 生きづらさを抱える人の働く場づくり事業(傍楽体験事業)

○仕事の切り出しや、地域からの受注による「小さな働く場」を縁会員が主体となって実施

#### (7) 医療的ケアを要する重度障害児・者の入浴支援事業

- 通所事業所での訪問入浴利用モデル
- 高齢者施設の協力による介助入浴モデル

### 4 国、県、市町への施策提案

5年間の目標⇒ 20の提案

- (1) 協定にもとづく知事との懇談会
- (2) 施策提案

### 5 縁・支え合いの県民運動

5年間の目標⇒ 新たに福祉のボランティア体験をする人10,000人

#### (1) 「えにしの日」(3月11日)「えにし週間」の取り組み推進

東日本大震災が発生した3月11日は、すべての人にとって、命の尊さと、絆・地域コミュニティの大事さを再確認したい日である。

28年度に引き続き、縁センターでは、「えにしの日」、「えにし週間」に、県内各地で利用者主体の防災訓練の開催を呼びかける。そして、訓練を通して支援を必要とする人の目線で防災計画や避難支援マニュアル、避難所や福祉避難所運営マニュアルなどの検証を行い、計画の見直しや改善を働きかける。

#### (2) つながり・ひろがる縁フォーラムの開催

総会とあわせてフォーラムを開催し、改めて誰のため、何のための実践であるかを学び、交流する。

#### (3) 各モデル事業フォーラムの開催

縁センターの志と実践を多くの方たちと共有し、縁・支え合いを県民運動にひろげていくため、各モデル事業の実践者らによるフォーラムを県内各地で開催する。

#### (4) 「縁センターの今後」の方向性の検討

会員団体、会員法人等、実践者自身が縁の活動期間(平成30年度)終了後の事業や推進体制について検討を行い、センターとしての方向性を定めていく。

(論点:事業の継続、会費負担の継続)

#### (5) 人づくり、人つなぎ事業

縁会員同士が業務を離れた場で交流し、励まし合える仲間をひろげていく。

- 福こい♡縁結び事業

#### (6) 広報活動

- えにし通信 年4回発行 ○年次レポート「えにし白書」
- ニュースレター(今月のえにし)、ホームページやフェイスブックでの広報

#### 〈県社協事業〉

県ボランティアセンターによる「福祉施設で福祉ボランティア体験」事業の実施